

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 NPO法人箕面こどもの森学園  
(※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 562 - 0032  
大阪府箕面市小野原西 6-15-31

E-mail info@kodomono-mori.com  
Website http://kodomono-mori.com

幼児児童生徒数 男子 24 名 女子 31 名 合計 55 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本学園では子ども一人ひとりの個性を尊重し 知性・感情・創造性をのびやかに育てることを理念としています。持続可能な社会に向けて、さまざまな個性をもった人たちが、互いに違いを認め合い、思いや意見を尊重し、よりよい社会を築くために、対話を通し物事を解決することができる民主的に生きる市民が育つ場づくりを目指し、学校教育全般を通じてESDを行っています。

これらESD活動を通して、子どもたちが主体的に考え行動する力や人と協働すること、自分を表現すること、多角的に考える力などの育成を目標としています。

ESD実践では具体的に、テーマ学習で環境や平和に係わる活動、子どもたちが学校運営を行う活動、またSDGs・GAPについての活動を以下のように行いました。

### ① テーマ学習（総合的な学習/環境・平和・市民性分野）

#### ○『気候変動』（1学期）

地球規模の課題である地球温暖化や気候変動について学習を行った後、自分たちができることを話し合うために、「地球レスキューこどもの森会議」を開いた。その後、継続して活動を進めるためにエコクラブが生まれた。

○『平和のレシピ』(2学期)

自分たちの周りにおける平和や対立について考え、一人ひとりができる行動について考える学習を行った。三色の帽子(暴力・我慢・対等な話し合い)等のワークショップを行い、対立が起こった時の平和的な解決方法について学習した。また、戦争の歴史や現代の紛争や貧困、平和を妨げる要因について考え、平和をさまざまな視点から考える学習を行った。

○『私の将来』(3学期)

自分の好きなこと・得意なことなどを知り、子どもたち一人ひとりが主体的に自分の将来について考える学習を行った。

② 子どもたちが参加する学校運営/行事

○修学旅行(2017年12月/小学4年~6年生)

子どもたちが行先の決定や資金集め、企画運営する修学旅行を行った。役割分担を行い協力して進めたり、話し合いを通して課題を解決したりする機会となった。

○海外研修旅行(2017年11月、中学1~3年生)

台湾の全人実験学校を訪問し、国際交流や異文化理解につながった。また、旅行に関わる準備(宿泊・交通・食事・観光・会計・交流等)は子どもたち自身が担うなど、子どもたちが主体的に行動することや協力して活動する機会となった。

③ その他(SDGs・GAPにかかわる活動など)

○ESD重点校形成事業~輝け!サステイナブルスクール~(2016年~2018年度)

2016年に文部科学省委託・日本/ユネスコパートナーシップ事業「ESD重点校形成事業~輝け!サステイナブルスクール~」の24校のうちの1校に採択されました。研修会への参加、他校との交流や実践の共有などを通して、ESD活動の研鑽に努めている。

○ユネスコ国際プロジェクト『気候変動プログラム』参加

ユネスコが提唱する『ホール・インスティテューション・アプローチ(WIA:機関包括型手法)の気候変動プロジェクト』に参加し、気候変動学習に全校で取り組んだ。

○ユネスコ国際ビデオ会議参加(2018年3月12日)

ユネスコ本部より提案を受け気候変動プロジェクトについてのビデオ会議に参加した。デンマーク・レバノンの学校と、パリのユネスコ本部、本校の4か所を結んで、3校の気候変動の教育プログラムを発表し合い、質問や意見交換を行った。

○ユネスコ国際フォーラム参加(カナダ/2017年3月)

カナダで開かれた国連『平和と持続可能性のためのUNESCOウィーク』に、日本のユネスコスクールとして参加し、世界各国のユネスコスクールの教員の方と実践や課題を共有する機会を持った。

○ESDに関するアジア太平洋専門家会議参加(中国/2017年12月)

中国で開催された『第5回ESDに関するアジア太平洋専門家会議』に参加。北京のユネスコ委員会のメンバーはじめ世界各国から集まったESD専門家と実践の共有を行い、本学園とESD活動についても発表した。また中国の教育現場の視察を行った。



ビオトープ修繕



地球温暖化体験



ワークショップ  
『私たちにできることって何だろう?』



学習発表会（気候変動）



学習発表会（私の将来）



子どもたちがつくる修学旅行

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p><b>気候変動学習</b></p> <p>【ウェブサイト】 世界気象機関(WMO)：2050年の天気予報(NHK) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=NCqVbJwmyuo">https://www.youtube.com/watch?v=NCqVbJwmyuo</a> 「二酸化炭素を減らす国 ブータン」 <a href="http://www.nhk.or.jp/superpresentation/pastprogram/160721.html">http://www.nhk.or.jp/superpresentation/pastprogram/160721.html</a></p> <p>【書籍・冊子】 絵本「ちきゅうはみんなのいえ」 「考えてみよう地球温暖化」大阪府地球温暖化防止活動推進センター</p> <p>【映像・DVD】 「地球はいま」、「Before the flood (地球が壊れる前に)」</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

私たちの学校ではESDを学習の中心に置き、教科横断型で学習を進めています。具体的にはテーマ学習※という学習科目で、「環境」、「人権」、「平和」、「市民性学習」などそれぞれの分野から学校全体の共通テーマを設け、一学期間をかけて全校生徒で学ぶプログラムを行っています。学習方法は、関連する場所を見学することや、経験者や専門家を招いてお話を聞くなど、体験的な理解となるように工夫しています。また、学んだことを実際の生活で活かせるように、学校や家庭において行動につなげていくことを目標とし、学習プログラム作りを行っています。

※総合的な学習のような科目

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

継続的にESD活動に取り組むために、スタッフ（教員）や保護者を含む学園の運営委員会メンバーと組織の方向性を共有することが大切だと考え、定期的にビジョンミーティングを行っています。そこでは私たちが『何を大切にして・何のために・どこに向かっているのか・どんなことがしたいのか』について意見を出し合い、学校全体で持続可能な社会に向けての取組みを行えるようにビジョンの共有の工夫を行っています。また学習では、テーマ学習の担当スタッフチームが、学期ごとにカリキュラムや学習方法にESDやSDGsの要素を反映できるように心がけて取り組んでいます。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学習ごとに子ども自身で、その活動についての振り返りを行っています。またテーマ学習では、保護者や一般の方も参加する学習発表会にて、子どもたちそれぞれが学習したことを発信しています。その活動に対して、見た人からの感想やフィードバックを集め、客観的に振り返る機会を持っています。これらの自己と他者評価を通して、子どもたち自身が自分の学びを振り返り、次の学習につなげ主体的に学習を進めていけるように努めています。今後の取組みとしては、学習を通してどのような変容があったのかや、実施した学習プロセスの客観的な分析等を行っていきたいと考えています。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- テーマ学習発表会：学期ごとに保護者や一般の方も招いて、子どもたちの学習発表会を行っている。本学園のESD活動を知っていただくことや、家庭や地域の方と、ともに考え共有する機会となった。
- 学び場コーディネータープログラム：保護者や一般の方を対象に、学園で取り組んでいる自己決定・対話・ESDなどを実践する、学び場コーディネーター講座を実施した。参加者よりESDの理解が深まったとの感想をいただいた。
- ユネスコ本部ビデオ会議への参加：デンマーク・レバノンの学校、ユネスコ本部に向けて、本学園の気候変動学習の取組みを発信した。それぞれの学校実践の発表に加え、各国の状況などを共有し交流する機会を得ることができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- 地域のさまざまな団体や専門家、企業の協力を得ながら、子どもたちがお話を聞いたり実際に訪問したりするなど、体験を通して学習を行う機会を持った。
- ESD重点校形成事業（サステナブルスクール）の活動では、ユネスコ・アジア文化センターの支援をいただきながら、多様なステークホルダーとの交流を持つことができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- サステナブルスクール活動(ESD重点校形成事業)では、採択された24校と研修会を通し交流を行うことができた。その中でも千葉県立桜ヶ丘特別支援学校とは、子どもたち同士の交流を行った。また、横浜シュタイナー学園にスタッフ数名が見学でうかがい実践を学び、交流の機会を持つことができた。
- 大阪ユネスコスクールネットワーク活動への参加では、教員研修等を通して交流を持つことやESDへの理解を深めることができた。
- 韓国教職員招へいプログラム(2017-2018 国連大学 国際教育交流事業)では、学校訪問の受入れと交流を行った。また学園の保護者の協力を得ながらホームビジットの受入れを行い、韓国教職員の方に日本文化を体験いただいた。
- ユネスコ国際ビデオ会議を通じて、デンマークの Roskilde Gymnasium 校とレバノンの Duetsche International Schule Beirut 校と交流を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

ESD活動をするなかで、子どもたちのなかで協働する姿勢が生まれています。特別講師として来られたファシリテーターの方が、子どもたちが話し合いを持ちながら協力し合う様子が育まれていることに感心されていました。これらの協働や対話で問題を解決することは、ESD活動の積み重ねによる子どもたちの中に生まれた変化だと感じています。

教員のなかでは、学習目標やカリキュラム作りを行う際に、ESDや持続可能性を考慮しながら行うようになりました。教員の多くが、ESDに関わる国内や海外の研修事業や会議に積極的に参加したことや、外部の専門家による研修を行うなどESDへの理解を深める機会が増えたことが、活動のなかで生まれた効果だと感じている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 2018年度はテーマ学習を中心に、以下のESD活動に取り組む予定です。
  - 1 学期 めぐる生命：人、動物、植物の生命について考える。人と自然が共生する持続可能な社会について学習する。
  - 2 学期 食（消費・経済）：食を通して、日常生活と社会のつながりを学習する。食との関わりから持続可能な社会の消費と経済のことを考える。
  - 3 学期 エネルギー：色々な種類のエネルギーについて知り、暮らしとの関わりを学ぶ。持続可能な暮らしに必要なエネルギーについて考える。
- ESD重点校形成事業（サステイナブルスクール）の取り組みが3年目を迎えるため、今まで取り組んでいたことを、さらに広く情報発信できるような活動を行いたいと考えています。